

発行所 水 陵 屋 古 名 支 部 会
 水 陵 屋 古 名 支 部 会
 〒111-0001 東京都千代田区千代田1-1-1
 (株)エネック 企画室
 ☎052 (221) 111100
 発行責任者 中山 修
 印刷所 中 登 録 会 社 印 刷
 ☎0569 (21) 242600

支部総会に百六十四名出席

—モンゴル歌手オユンナ特別出演—



挨拶する中山支部長

平成六年度の支部総会は、去る四月十五日(金)午後六時半より名鉄グランドホテルで開催された。

吉田経済学部長、京都支部長、岐阜支部長を来賓に迎え、総勢百六十四名が出席した。年々参加者は増加傾向にあるが、本年は昨年より二十七名増え過去最多を記録した。

中山支部長は、来賓各氏と出席会員に感謝の言葉を述べ、昨年度の母校創立70周年記念行事が盛会様を終了したこと、陵水学術後援会基金は三月末で目標を上廻って五千四百万円に達したこと



熱唱するオユンナ嬢

を報告した。奨学寄付金(目標二億五千万円)については、おっぺお願いがあるがその折には協力して欲しいと要請し、更に支部会員相互の親睦強化について抱負を語った。急遽出席できなくなった樋口理事会からビールの寄贈のあった旨披露もあった。懇親会のアトラクションにモンゴル出身の歌手・オユンナが登場し喝采を浴びた。

来賓祝詞

新設学部構想と滋賀大学の将来

経済学部長 吉田 修



吉田経済学部長

本日は陵水会名古屋支部の総会にお招きいただきまして本当にありがとうございます。ご盛会を心からお祝い申し上げます。ご報告から

後ほど大学の状況と課題についてお話しさせていただきますが、その前にぜひ皆さん方にお伝えしたいエピソードがございます。忘れたくないのでそれからからお話ししたいと思います。

先日大学で研究生や聴講生の面接をしておりました。今では聴講生という名前ではなくて科目等履習生という名前なんですけど、その科目等履習生の面接をしておりましたら中国人のお嬢さん、二十三、四のお嬢さんがいらっしやいました。名前を白雪雲とおっしゃるのです。お話ししておりましたら日本語も非常に達者で、すでに

もう二年間日本に滞在していらっしやって、これから一年間滋賀大学経済学部で勉強したいとおっしゃるのです。どうして彦根に縁があるのですか」と尋ねると、「私の祖父は二十年前この大学で教鞭をとっていた」とおっしゃるのです。お聞きしたら、高商時代二十年間いらした白先生のお孫さんでした。

その縁を頼って大学におみえになって一年間勉強されることで、本日に大学の歴史と先輩の歴史の縁のつながりの大切さをあらためて身にしみた思いがします。それをぜひ皆さんにお伝えしたいと思っておりました。先生は数年前にお亡くなりになりました。先生は数年前にお亡くなりなられたそうなんですけど、ご家族が肥料の工場の経営に関係しているんだとおっしゃっていらして、日本で経営を勉強してその経営に役立てたいんだと勉強の意図をおっしゃっていました。

さて、現在の滋賀大学の状態を申し上げます。私が大学を卒業しましたのは三十三年前、その当時は経済学科、経営学科の

二学科でして、学生定員は百六十六名ぐらいたったと思います。その後会計学科、情報管理学科ができて、そして数年前ご存じのようにファイナンス学科が、昨年十月に社会システム学科というのが出来ました。

現在、全国の大学で教養部、教養課程の廃止とそれに伴うリストラが行なわれています。リストラの一環として私共の大学も一般教育科目を廃止いたしました。その代りにそのスタッフを中心に新しく社会システム学科として再出発したわけです。それを契機に、従来の有職学生の教育に当っておりました経済短期大学部を廃止しまして、それを吸収する形で発足したわけです。新しい社会システム学科を加えた六学科で発足したわけですが、職業を持っている人達も参加できるようにコースを改めて設けました。それが社会人コースでして現在夜間コース五十名設けておりますが、それを含めてこの春入学しましたのは五百九十名です。

入学学生五百九十名、現在の学生総数は二千名。教員の定員が百十三名、今年度予算が通りますと六名増えますので今年度の定員は百十九名ということになります。百十九名の定員は全部埋まっています。

ません。今後どんな理めたいかなくてはなりません。それが大きな課題です。いずれにしても、学生数、教員の数からいっても単一の経済学部としては全国で最大の規模になっています。これ自体は喜ばしいことなんです。量的成長の限界にきているということは、ここあたりで質的な転換を図らなければならぬということになります。

かねてより宿願となっていました。新設学部は幾度か試みながらそのたびに壁にぶち当たり挫折してまいりました。現在更に四回目の挑戦になるかと思えます。今日も私文部省へ新任の挨拶とともにその新設学部の問題でお願いに行っていました。現在計画中の「社会学部」という名称のものを目指しています。理工系でもない社会科学系でもない新しいジャンルのものを目指しています。どちらかというとソフトなテクニクといったらよいでしょうか。ただ工学部の並流ではなくて新しい科学領域、教育領域を開発したい。その中には情報の問題が入ります。それから都市開発の問題も入っています。地域開発、環境の問題も入っています。そうしたものを目指して、これまでのテクニカルな工学部と違って社会の開発

に貢献できるものと考えています。ただ学部が純然たる新しい形では出来ません。現在学生数六百近くまで来たこの学部が、熟した柿が実を落とすような形でそれを活かしていかなくてはなりません。はっきり云いますと、文部省は私達の大学に一銭の金も割いてくれる余裕はないと思います。あるだけの資源でやらなくてはなりません。私共にあるのは七十年の歴史と百人近い教官であります。これをなんとか活用してやっつけていかなくてはならないのです。そういう産みの苦しみを、これは国立大学が新設学部をやるためには、最後の最後の段階だということもよいと思えます。

和歌山大学にはもう文部省から新設学部準備室長、そういった人達が派遣されてがんばっています。これはもうほぼ確定しています。そういうことですから、教育と経済だけのEJ大学でこのままいくと取り残される。取り残されても伝統があつて中身があればいけるんですけど、遺憾ながら行革審の方針以来大学の設置形態の見直しということが私共には決して無縁のものではない現実の可能性が問題として突きつけられています。国立大学としての設置形態から場合によっては地方の行政への

移管ということも無いわけではありませぬ。それを避けるためにはなんとしても新しい学部を作らなければならぬ。本来ならばキャンパスの統合が一番大きな課題であります。現実問題としてはこれはまず今の段階でははや手遅れで不可能であります。ならば、残った可能性は新設学部をおいてしかない。私共は考えているのです。前学部長の清水教授も本場にこのために貢献されて、私もそれを一番大きな課題だと思っております。そのために、学長を始めいろいろ手を打ってきております。

今日正式に報告させていただきたいのですが、経済学部はお城の高商以来のキャンパスとほかに犬上川の南に四万平方メートルのグラウンドを持ってあります。このグラウンドの横に県立大学が設置されたのです。県の方から更に県立大学の拡充のためにその土地を譲ってくれないかという話が出てきました。譲ってくれなくても私共にとつても貴重な土地であり譲ることは出来ないといつておりました。旧東洋繊維、現在トスコという名前です。ところが、そこが操業を止めましてその敷地を処分したいという話がありまして、県の方が仲介に入りまして犬上川

グラウンドとトスコの土地の交換を正式に成立させることになりました。ただ残念ながら、文部省は一銭の金も出してくれませんが、等価交換です。やはりトスコの土地は四万平方メートル近くあるのですが四万そのまますまに入れては出来ませんでした。四万平方メートルに対し、我々が手に入れたのは三万平方メートルで約一万減りました。減りましたけれど、実質隣接地にキャンパスを得たという事は、ある意味でいえば従来キャンパスの手狭さを文部省に指摘されていたので、連続する場所にキャンパスを得たことは新設学部設置の一つの条件整備にはなつたわけでございます。ただこれは数ある障害の一つを乗り越えたいわばマイナスをプラスに転ずるための一つの手掛かりを得たということかも知れません。このうえに新たな可能性を追求していかなくてはならないのです。

そのほか組織的改革としましては、昨年十月に新たに滋賀大学産業共同センターというものを発足させました。これはどういうものかといえますと、文部省が国立大学に理工系の大学中心に地域指導センターというものを設置しています。これは産業開発、特に技術開発に貢献するための産学共同の

センターです。私共が行いましたのは工学系のものでありません。我々の持っているのは人的資源です。これは経済学、経営学、会計学、情報科学です。そういうものを中心とした社会科学系の内容を中心とした産学共同センターです。

これを発足させまして将来の新設学部の設立の爲にも役立たせたい。あらゆる手をつくして役立てるものをやつたのではないかとはいつてやつたのです。発足したのは十一月です。まだPRをあまりやつていませんが、幸いにして新年度になって一件地元の企業との産学共同の契約が成立する運びとなっています。地元の企業で従来の大企業との提携から自立を目指している企業が多くなつてきます。そういう中で、非常に優れた技術を持っていても製品開発やマーケティングのノウハウで不馴れで、そういう点で大学の知識を借りたいという企業がございます。そういうケースを中心にごんごんと手を広げていきたいと思つています。こういう形で地元との産学共同が進めば文部省の注目することとなり、新設学部の設置にプラスになるといふ期待を込めてやっています。こういうところが現在の大学

の情勢と課題でして、こういうことをやろうと思つて私共在職の者だけではどうも手に余ります。一つには、やはり地元の協力ももちろんございますが、何よりも長い伝統の中で培われてきました陵水会の皆さんの人脈やお力を借りなければ成り立たせません。これからの形でお願ひにまいると思つて、はつきり申し上げて、新設学部の新設が出来ないかぎりには滋賀大学の将来はないんだという気持ちで取りかかっています。と申しますのは、先程申し上げた県立大学が非常に優れた内容をもって同じ彦根の土地で大学づくりをやっています。場合によっては、そちらがメインになり得る可能性がないわけでもありません。本日は我々がそれを吸収しなくてはならない立場にあったのです。ところがそれが逆転するようないことがあつてはそれ何としても申し開きの立たないことでもあります。これをどうしたらよいか、これが一番の課題であります。どうかよろしくお願ひ申し上げます。

それからもう一つ、先程学部長がおっしゃいましたが、二億五千万円の基金のごさいます。前の清水学部長より引き継ぎを受けていたばかりで、樋口理事長に

も五月にお会いする約束を取りつけております。お願ひしたいと思つております。改めてこちらにもお願ひにまいると思つて、はつきり申し上げます。九回卒です。皆さん方のはるか後輩です。高いところからいろいろのことを申し上げて申し上げたいと思つております。現在、大学の責任ある人間としてご報告とお願ひをしてご挨拶に代えさせていただきます。どうぞも本場にありがとうございました。

オユンナさんとのこと

総会幹事 橋本英一郎

オユンナさんの歌声を初めて聞いたのは、いつのことだったろうか。可愛いモンゴルの少女の、草原に響き渡るような声が、いつまでも耳に残っていた。

それから、ふとした縁で、昨年末「オユンナを激励する夕べ」でお目にかかった。

久しぶりの彼女は、随分大人びていて（モンゴルでは彼女の年齢なら子供の一人、二人いて当たり前だが）、彼女の成長した容姿や声に驚くとともに、彼女の巧みな弾き語りを感じたのだ。丁度その頃、名古屋支部総会の

催し物に悩んでいた折で、また、たまたまその席で、大先輩の東海テレビの若松社長様と一緒させて頂いたので、早速、図々しくもオユンナさんの出演をお願いしたいわけである。

その後、同テレビの阪田営業推進部長と、彼女の所属している「イースト・ウィング」の久野社長に全てをお願いした結果、出演して頂けることになった上、司会まで同テレビの近藤さんに無理を願つた次第。

どうも、大先輩に甘えずして申しわけなく、改めてここにお詫びと御礼を申し上げます。

只一つ、小生が細工したのは、アンコール曲に琵琶湖周航歌をお願いしたことである。

前もって練習してくれた彼女は、久野社長のお話によると、加藤登紀子の歌うこの曲を随分気に入つたとのこと。

そのおかげか、当日は先輩諸兄も立ち上がって合唱して頂くという、思いがけないフィナーレとなり、幹事冥利に尽きた次第です。

オユンナさんは、今春から同朋学園・名古屋音楽大学に進学し、当地を中心益々音楽活動を行う予定。どうかこれをご縁に、陵水会の皆様の一層のご支援をお願いしたい。

総会報告

総会幹事 坂 清司

恒例の平成六年支部総会を無事終えはつとした所です。

昨年度総会（大学六回卒主催）の盛会の圧力をひしひしと感じながら、七月十六日名鉄グランドホテルで同期（七回卒）十四名久し振りの同期会を兼ね最初の打合せを行った。この席で、会場を名鉄グランドホテルとし接渉を橋本英一郎君に一任した。大筋としては開始時間の関係で総会前の講演会を取止め、総会の中でアトラクション的なものを行つてはという意見があつた。

一月廿六日支部幹事に橋本、大橋、小生の三名が出席し四月十五日（金）名鉄グランドホテルで行うことを決定した。アトラクションについては東海テレビ若松社長（高商二十回卒）のお口添え

最後に、こういう因縁か、オユンナさんの母国モンゴルの国立サーカス団の日本初公演を今秋、名鉄が支援している野外博物館「リトルワールド」で行う予定となった。どうか、秋の一日を、オユンナさんの国のサーカス見物かたがたりリトルワールドへお出かけ下さい。（大）

により、モンゴル国民大使オユンナさんの出演を依頼することとした。（詳細は別稿橋本英一郎君の「オユンナさんのこと」を参照して下さい。）又会費について従来通り一万円（同俵五〇〇〇円）に加え女性八千円とした。一番大きな問題が、如何にして出席者を確保することであつたが、支部名簿に可成りの洩れがあることが指摘され、各回幹事及び主要企業の方に名簿確認を依頼することとなった。各回幹事、企業より可成りの回答を頂き、又吉田幹事長が昨年より本部発行の名簿により調査して下さつた結果、従来の支部名簿に一〇〇〇名程度の欠落あり、削除分三〇〇名程と相殺し、約二一〇〇名程度となり、中絶総合印刷より三月始め案内状の発送をした。その間二月二十四日同期十三名集まり各種役割分担（ホテルとの接渉、出席者名簿の作成、名札の作成、企業への出席者接渉等）を決め、一五〇名以上の出席者確保を確認した。三月二十六日現在で出席者百二十五名の返事が集まつた。今一歩目標に足りないので返信状況を勘案しながら出席の望めそうな回の幹事及び企業に再度出席者確保の依頼をした。四月四日最後の打合せを出席者十一名で行い、当日の進行・役割を決めた。出席

回答も一四八名に達したが今後の出席者も予想されるので更なる努力を誓い合った。

いよいよ総会当日の四月十五日となった。午後五時までは出席予定の同期十八名全員集まり、席の配置・受付・名簿配布等の準備も滞りなく終り受入態勢も整い、出席者の来場を待つばかりとなった。六時前より来賓始め出席者が来場され最終的には百六十四名の出席となった。(来賓三名含む)

一八時三〇分大橋君の司会により開催され、中山支部長、吉田経済学部長挨拶に続き会計報告、役員改選と行事を終え懇親会に移った。いよいよオユンナさんの唄になり美声に聞き惚れた後、最後に琵琶湖周航歌を全員立上りオユンナさんと一緒に歌い大いに盛り上げました。皆さんに満足して頂けた様で大役を無事終えほっとしている所です。

支部長・幹事長はじめ役員の方、各回幹事の方大変お世話になり有難うございました。

最後になりますがアサヒビール樋口会長よりビール、中壱酢店より冷酒、名鉄よりウィスキーの寄贈を受けたことを報告しておきます。(大)

創立七十周年特集

思いのまきに 河原盛一

昨年九月下旬水会本部より、滋賀大学経済学部創立七十周年記念式典・祝賀会開催のお知らせを頂き、次の八十周年記念行事には高齡のため出席出来ないと思ひ、出席の通知を頂きました。そこへ水会名古屋支部より、バス一台用意するとの御案内を頂き、喜んで申込みました。この御計画は誠にありがたく深く感謝しております。

十一月三日お心のわかった方々ばかりで気楽に乗せて頂き十時頃には懐かしい彦根城に到着、博物館をゆっくり見学して母校講堂に入りました。

午後一時より厳肅な式典後、広階段教室で京都大学名誉教授宮崎義一先生の「複合不況」の題にて有益な御講演を承り、バスにて港のプリンスホテルに於ける祝賀会に出席和やかに懇談しました。行事も終りゆつたりとした気持ちでバスに乗せて頂き、車中余興も出て本当に楽しい一日でございました。

去る四月十五日平成六年度名古屋支部総会が名鉄グランドホテルで開催され、今年は百七十名とい

う多数の方々が出席され盛会で結構でありました。当日東海テレビ放送若松重信社長殿の特別のお口添えにより、モンゴル国より当地へ留学中のモンゴル国民親善大使オユンナさんの特別出演で、会は大いに盛り上がり、アンコール琵琶湖周航の歌は最高潮に達しました。

私事と申し上げ失礼ですが、私は幼少のころ百日咳を患ひ、青年になると喘息を病み大変苦しみました。昭和六年三月卒業のとき、不景気で実業界に就職出来ず困っていましたとき、幸運にも学級増加で定員増の県立栗太農学校へ草津から御通勤の木村善喜先生のお世話で就職させて頂きました。昭和二十二年四月新制中学校発足に際し愛知県知多郡豊浜中学校長を命ぜられ赴任、学校経営と新校舎建設に全力を尽くしました。以後

大高中学校、八幡中学校と転任勤め、満五十八才で定年退職、子供の教育のため、第二の人生として名古屋女学院高校講師として赴任。七十才まで十二年間勤めました。以後名古屋市上津にある加藤徳商事株式会社に人事課長として採用され六か年間勤務しました。現在満八十七才で、来る十二月十日で満八十八才を迎えます。

今の生活は朝起きると乾布摩擦をし、二、三十分ほど散歩します。出かける宮沢賢治の詩「雨ニモマケズ」を必ず一度口ずさみます。賢治のような悟りの生活は出来ませんが、その千分の一、万分の一なりとあやかりたいと思っております。

午後にもいろいろの用事で出かれますが、出来るだけ歩くようにしています。高齡の者には何と云っても歩くことが大切だと思ひます。若い時弱かった私がこまめに生きたことは、定年退職後十八年間学校・会社に緊張して勤めた結果でありまして、現在殆んど病氣もせず、毎日感謝の生活をしております。

最後に水会名古屋支部の皆さんの御健康を心からお祈りしています。

彦根マイウエイ 本科21回 井沢慶一

私は昭和十七年3月神戸一中を卒業した。三高一京大をめざし将来司法官になることを夢見ていたが、前年12月8日ばつ発した大東亜戦争によって将来計画を変えた。我々の前途は徴兵一出征一戦死と定まっているようなものだからとその年は夏前の海陸の経理学校を受験するべく準備した。陸士、海

兵も勿論行きたかったが視力不足であった。しかし競争者多く「サクラチル」であった。

翌18年文系学生の徴兵延期特典の廃止、戦局の急迫化などがあって大学志望をあきらめ、食糧の豊富な、風光明媚、昔風の学生生活を満喫できるころ、というので級友岸川と彦根高商を受験、幸いにも「サクラチル」となった。(3月)

4月8日入学式、徳聖寮に入る。桜満開。6月5日山本五十六元帥国葬につき遙拝式。6月22日能登川へ麦刈奉仕、銀シャリをたらふく頂戴した。9月23日本科19回卒業式(学業短縮措置)10月21日出陣学徒壮行会。11月15日農繁期勤労奉仕。12月15日土地改良(暗渠排水)工事出動。昭和十九年2月1日戦時特別措置により明年度より工業専門学校に転換を命ぜらる。この一年戦局は緒戦の勝ち戦から持久戦となり好転せず、銃後の生活は益々窮屈となったが、学生生活もこれが最後とばかり我等は寮内外のストーム、賭場征伐、へい衣破帽高下駄での袋町詣で、メッチェン探し(学校職員の間平澄子さんは皆んなのプリマドンナであった)等々青春を謳歌した。一方私は中学につづいて陸上競技部に入りインターハイに出場した

うすれば商売は勿論、商売以外の事でも一切の願ひことは叶えられ、晴れやかな気分になれますよ。」と云った所だろうか。

経営者がこの精神に立ちかえった時すべての従業員にも奮闘な笑顔が戻り企業は苦難を乗り切れる筈である。

学生時代、哲学者秋山範二教授に教えられた言葉に「布施、忍辱、持戒、精進、智慧、禪定」の六波羅密がある。(年配の人には此の言葉は馴染み深い若し人の為の意識をすれば「下座の仕事に甘んじて勵み、自己を厳しく律し、憐れみの心で弱き人を救ひ佛の智慧に従って世の為に折れ」と云った所である。)之は出家の根本精神を説いたもので、当時は単なる道徳教育の教えでしかないと思っていたが、夫でも安心立命を少しも感得しようとして我々学生仲間が入隊を前に禪寺へ参禅した思い出がある。開戦直後の不安の心を鎮める手段として恰好の参禅であったが青二才でもそれなりの安心感を得たものだ。現在はその頃と違って生命の危険はないけれど有為転変の世にあって此の六波羅密こそ安心立命の最終のより所であり又采えと喜びの原点であると思ふ此の頃である。換言すれば出家の精神こそ人間の行動を活性化する

が、もう既に皮製スパイクは禁止されズック製であり手榴弾投げが正式種目になっていた。

一方彦根を志望したも一つの理由は教授陣の豪華さであった。田岡(校長、道元の研究)秋山(哲学)以下木村、芳谷、桑原、高橋、橋本、大橋、片岡、片山、浅見、山下氏らの名物教授陣にドイツ語のシユワブ先生(女性)教練の湯本大佐、生徒課の長谷川ロクさん、今思い出しても非常に懐かしい人ばかりである。

昭和十九年4月1日彦根高商は彦根経専と改称させられた。8日9日我ら経専第二学年生徒は名古屋大同製鋼築地工場へ動員され、私はプロペラ軸焼き入れ工場へ配属、おかげで食糧は特配だった。9月20日経専第20回生繰りあげ卒業式。10月1日特甲幹として豊橋陸軍第一予備士官学校へ入校。翌20年8月15日終戦となり復員。9月20日我らの卒業式は省略、卒業証書は郵送された。11月15日経専卒業業者約60名が補習授業を始めた。

私は翌年桑原教授の御紹介で中部日本新聞社に就職することができ単身名古屋へやってきた。

(なお題名にマイウエイをつけたいのは過日NHKの調査によれば自分の葬儀の時どんな曲をかけて欲しいかのダントツ第一位であつ



わたらのプリマドンナ田平澄子さんと(現姓福井・福岡在住)

目下多忙にて御座候

経専22回 所 鉦一

一昨年六月、ビジネス第一線を引退、そして昨年六月、サラリーマン生活四十四年の幕を閉じ全く一介の市民となった。

「さて如何せん」と思う間もなくどこで聞きつけたか自治会長がやって来て「監査」就任の要請、「まあいいや、これも地域への恩返し」と引受けた。一方、根っからの会社人間から脱皮せんものとのカルチャーセンターの「俳句教室」入門、教養の修得も、と欲張っている。そして今年四月、二回目の挑戦で「名古屋市高年大学園芸学科」へ当選人学した。毎週火水曜日に講義(教養と専門の両課程)とクラブ活動(小生はワー

プロクラブ)があり二年間の就学である。三分の二以上の出席が卒業条件、今年入学者の平均年齢は67.5才、いいおじさん、おばあさんが学生よろしく真剣に聴講する風景は厳しくもまた微笑ましい。又昨年、田舎(西濃)の親譲りの土地に小さな家と庭を造り、月二回のペースで名古屋から通いながら野菜づくりに励んでいる。全くの原始農法(鎌を使う)で重労働である。最近ヨーロッパで大流行と言う「アグリツーリズム」とはとてもゆかぬが多少でもあやかれれば幸い、と思っている。

なお引退後、ご多分に洩れず多少体調の乱れもあって検査含みの入院を二回、幸い大事に至らず今はまあ健康と言えよ。定期的に通院しアフターケアにも怠りない。話は跳ぶが、母校(彦根)がらみで物を書く事は絶えて無かったが、どう言う風の吹き廻しかご下命と相成り今戸惑いながらペンを執っている。そして敗戦直後の在学時代、新聞部を復活し、学校当局の監視を受けながら「彦根経専新聞」を復刊した事を懐しく思い出している。

無題

清水 豊

用あって某社の窓口へ行つたが、窓口職員について言えば昔の鷹揚な笑顔はなく作り笑いの顔が対応していた。民営になって競争も厳しく一人当りの仕事が多くなりなっているに違いないと思つたりもした。この事はどの業種についても言える事だろう。大変お気の毒に思つたりもした。規制緩和により益々企業の競争は厳しくなり人員減らしと労働強化がやってくるだろう。一方新商売の台頭もあって浮沈の機会も益々増加するだろう。内外興亡の歴史を顧る時守りの姿勢に入つた旧勢力を駆逐するのは、奉仕の情熱盛んな新勢力である。之は古今に通ずる真理である。アダムスミスの自由主義精神が息づく限り世界経済は興亡をくり返しながら変転を続けるのであろう。こう書いてくると息苦しくなつて追ひ詰められた気にもなる。生活に疲れた時すがすがしい気分へ転換出来る言葉がある。キリストの「先ず神と神の義を求めよ。その余のものは汝に加ふるべし。」の言葉である。

この言葉は今風に云えば「商売を始めた頃の初心にかえつて慾心を去り奉仕の原点に帰りなさい。そ

原動力であると確信している。米国が官能文化、快楽文化、退廃文化と云われ人種間反目による国家解体も近しと説く人もあるが、開拓時代の旺盛なニューリタン(清教徒)精神が背後に健在である限りその繁栄は約束されると同様に日本も出家の心にたち帰る時その永遠の繁栄は失われぬと思ふ次第である。ピュリタン精神と云い出家の心と云い東西に生れた同根の智慧と見て良いと思ふ。

学び舎の思い出

大4 中嶋宗嗣

学窓を離れてからすでに四十年近くが経ち、還暦を過ぎた私には過ぎ去った日々をふり返ってみるとき感慨深いものがある。この四十年という時間のうち、約八割にも及ぶ三十二年間を会社人間として過ごしてきたことになる。これに対し、四年間の大学時代は過ぎ去った日々の中で鮮やかに記憶の中の一コマとして輝きをもって残っている。記憶全体が忘却に向って輪郭がぼやけ始めているが、記憶の糸をあれこれとたぐっていくと、長かった会社生活に匹敵するほどの情景が断片的に次々と浮かんでくるのである。普段は意識の底に沈んでしまっている四年間

の学生時代に身についた思考パターンや習得した知識、生活体験などがその後の生活史に少なからず大きな影響を与えていることに気がつく。もちろん、学生時代と社会人としての生活は同質のものではないが、そうかといって全く別個のものに変質してしまつた訳ではないと思う。つまり、学校生活と会社生活とはつながっていて、その間の断層が大きいのである。よく「学校で習ってきたことは会社では何の役に立たない」といった議論がなされるが、これは実務面での即戦的な効用についての一面を指しているに過ぎない。確かに四年間で学ぶ知識には限度があり、会社の目的にそつた実践に即座に役立つ知識や技術は極めて少いと言えるのではなからうか。しかし、即効的ではないが間接的に目に見えない形で役立つには違いないと言えるであろう。つまり、学生時代に培われた物の見方、考え方、論理的思考や思索といった精神活動の経験がたとえ未熟なものであつても、社会生活での行動や意思決定など実践の基礎を構築して、精神形成上、重要な役割を果たしていると考えられる。

私の生まれは大阪であるが、小学六年のとき、父の出身地である近江八幡市に疎開し、大阪に残した家が戦災で焼失したため、そのまま住み着くことになった。滋賀県が第二の故郷になった訳である。大学への通学には東海道本線を利用して、東海道本線と言つても現在のようには非電化でなく、当時は、通学区間は非電化でSLが走っていた。幹線でありながら列車の数が一時間に一本程度しかなく、ずいぶんのんびりとした時代で、今思うと隔世の感がする。彦根駅から大学までは彦根城の濠に沿って徒歩で二十分はかかったと思う。春には濠の水辺に映える満開の桜が見事で、伊井大老の生涯を描いた映画「花の生涯」に出でくる濠端の風景と重なつて、今でも印象深く脳裡に浮かぶ。また、緑の森の上に雄姿を覗かせる天守閣や古びた町並みも当時の記憶を引き出させてくれる懐しい光景である。

教授)、会计学(岡本教授)、簿記学(小倉教授)等々、いずれも特徴のある講義で、今でも当時の授業風景を思い出すことができる。私は白杉教授のゼミに所属していた。ゼミではケインズの「雇用、利子および貨幣の一般理論」がテキストに用いられ、ケインズ理論の考察がテーマであった。今ではケインズといえは高校の教科書にも出ているくらい知名度が高く、古典として評価が確立されているが、当時は新しい経済学として紹介されていて現在ほど世上一般での知名度は高くなかつたように思う。新聞紙上でケインズ理論は日本経済に有効な経済政策であり得るか否かが論じられるようなことはなかつたのである。ゼミではテキストは英文の原書を中心に、翻訳書を参考にしながら読み進んでいくというものであった。一般理論の文体はケインズ独特の含蓄のある洗練された表現が多く、決して一読して理解できると言つたものではないため、一言一句吟味しながら理解する努力が必要であつた。当時、自分でも果たしてどれだけ理解できていたのか怪しいものだったと思う。ただ、ひたすら読破してやろうという気負つた気持ちが強くて、がむしゃらに取り組んでいたのであつた。そんな頃

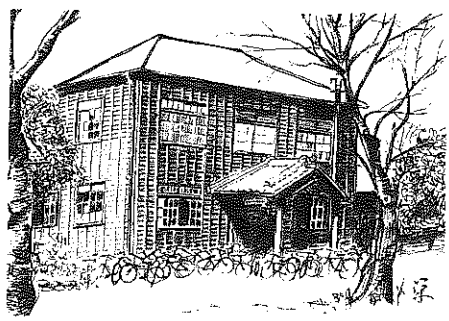
が懐しく思われる。ゼミの時間には今も亡き白杉教授がよく「経済学の古典はどの学者のものであれ、研究に一生をかけても時間が足らぬくらい奥深いものであり、真の理解にはそれほど意気込みがなければならぬ」という意味のことを言われたが、この言葉から教授の情熱をもって研究対象に取り組まれる真摯な学究姿勢が偲ばれ、人生観が窺えるよう得心打たれるものがある。ゼミで使つた翻訳書(塩野谷九十九訳、東洋経済新報社発行)は今も私の書棚の隅に収まっている。表紙や紙面は変色しているが、なぜか愛着があつて手放せぬものである。卒業以来一度も読み返したこともないが、ページを繰るたびにもう一度じっくりと時間をかけて読み返してみたいという思いに駆られる。今までに何度か、読もうと思ひ立ったことはあるが、未だに果せないでいる。一旦始めた以上途中で挫折しないため、相当の覚悟をきめて臨まなければあの大冊をこなすのは容易なことではないという考えが先に立つからである。しかし、今度こそは本格的に取り組んでみようという気持ち少しづつ強くなつてきている。今日この頃ではあるが、いつになれば完全読破の夢が現実のものとなる

なるであろうか。

約40年前の寮生活の思い出

大6 山田寿男

私が桜吹雪の御聖寮に入ったのは、昭和29年4月の事でした。当時新入生は出来る丈、一年間は、寮生活を経験する様にとの指導が行われていた。又、あの頃は国立大学へ入って来る者は、金持の息子は殆んどおらず、経済的に助かるという事と相まって、県外出身者は、大半が入寮した。御聖寮は10部屋の2階建寄宿舎が二棟と平屋建が一棟で、5つの寮群に分れて、総勢100人が生活をしていました。



県の尾張の郡部と三河出身者が主力で、岐阜、北陸、大阪の一部との混成軍でした。その生れ育った風土の違いは、言葉は勿論の事、物の見方、考え方も色々あり、加えて、多才才々、ユニークで元気が多かった事とも重なり合つてこの10部屋20人の仲間は、在学中は勿論の事、社会へ出た後も、固い絆で結びついてゆきました。ところでこの東寮には、南野(南野建設)と、光永(能美防災)という一年先輩で非常にリイダー性の強い人が居り、この指導の下に、寮生活、大学生活がスタートしました。入寮当初は毎晩南野先輩の部屋に皆んな集まり、「酒と歌」を覚え込まれました。まだ物が豊富でなかつた頃でしたので、駄菓子や肴に二級酒や焼酎を湯のみ茶碗で飲んだものでした。又、歌の歌詞の一節一節を先輩が云うのを大学ノートに書き記し、口ずさむ先輩の後より、一生懸命覚えたものです。

「眠もはるばると暁の...」で始まる寮歌は本当に何回も何回も歌つたものです。その他、高商校歌、高商小唄、遊賀大学校歌(不人氣)、逍遙歌、花の霞に、オイサ行こうよ、琵琶湖悲歌、琵琶湖周航の歌、人を恋うる唄...等々

学校での講義の事は忘れてしまった事が多いが、不思議と金亀城下での青春の歌声は、今もハッキリ脳に残っている。寮雨、ストーム、開寮祭、映画のエキストラ等、色々あるが、秋の運動会の仮装行列は是非記しておきたい。菊薫る文化の日に行われた仮装行列大会で、吾が東寮は2位に入賞した。文化、体育の各クラブ、各寮、ゼミ、通学電車の沿線組等沢山のグループが、夫々知恵と趣向をこらして競い合った。吾等東寮の出し物は「政界鮑き祭」で事後の「秋」をもじつた狸踊(盆踊り風)であつた。

狸の扮装がなかなか面白かつた。各人がドーランで狸の様に顔をゴテゴテに塗り、座ぶとんをシートで巻いたものをおなかにつけて、タイコ腹とし、バレーボールの中のコム風せんを七分目位にふくらませたものを股間につけてシンボルとし、一升徳利を、ぶらさげて写真の様な、タヌキ群を形成した。そして各人がボール紙で作つた糞笠に吉田(茂)、緒方(竹虎)、徳球(徳田球一)、鳩山(一郎)等々、書き加えた。この狸連が、「狸ばやし」や「あわ踊り」等を踊つて運動場を一周し、テントを張つた審査員席(江頭学部長他)



の前へ来た時、代表の南野先輩が、勸進帳の弁慶よろしく、巻物を読みあげた。内容は全く覚えていないが、何んでも「政治家は化かし合いばかりしている。もう国民は飽き飽きしている。もっとしっかりヤレ！」と激をとばした様なものだったと思う。この運動会の狸の仮装行列が、契機となつて、吾等東寮生20人は「狸会」を結成した。以来今日迄時々このメンバーで集まつては、旧交を温めている。一昨年は、長年の夢がかなひ、彦根玄宮園で、井伊大老を偲んで一夜の宴を張る事が出来た。今日私があるのは、このタヌキ

の仲間との団体生活で得た「競い合い、助け合い、励まし合い、なぐさめ合つてきた友情」が、その原点であると確信している。

落日に燃える宴

エー 樽田昭治

軽快な音楽と共に、するすると幕が切つておとされた。正に燃えるような真赤な夕日が、びわの湖に沈まんとする一瞬である。舞台はここ彦根プリンスホテル、滋賀大学創立70周年記念祝賀会場である。心憎いばかりの演出。登場する名優の数々、樋口廣太郎会長、宇野元総理、岩崎昭弥参議員(岐阜地方区)、名司会の井澤理事、地元彦根中島市長、などなど。時の流れ(伝統)、人、所、渾然一体の幕明けである。宴酣と共に、矢継、紺袴の明治調、なにわのコーラス嬢による御聖寮寮歌、軍歌、酔い疲れ、40数年前の回想に耽けるあつという間のひととき。車中の人となる。金亀城の夜景を仰ぎ見て、大正の口マン漂う講堂、既にご他界ではあるが、明治の気骨溢れる田岡一彦校長(昭和21年、口経専校長、後に大阪にて弁護士開業)。誠に若き血燃える、胸ふくらむ1日でした。

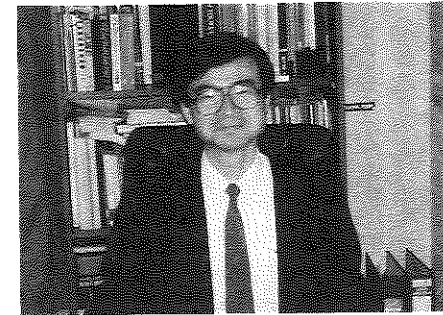
会員だより

ロンドン駐在を終えて

富田 修

今年四月、三年間のロンドン駐在を終えて帰ってきました。三年振りで見ると日本は、とても新鮮に映りました。まず印象的なことは、斬新なデザインの新築ビルが際立って増えたことです。それから乗用車が皆新しく、大型化したこともこの三年間で大きく変化した点ではないでしょうか。何て豊かな国なんだろう、これが第一印象でした。

ところで、市役所が海外事務所を持っていることは、あまり知られていないかも知れません。名古屋貿易相談所と言います、ロサンゼルス、クアラルンプール、そしてロンドンにあります。ロンドンでの業務として、英国を中心にヨーロッパからの経済貿易情報を送ります。そして定期的なレポートのほか、たとえば、これこれの商品を輸出したい、またはこうしたものを買いたいとの名古屋の企業から要望があると、相手に関する情報を収集、提供します。また、国際的な会議、大会を名古屋に誘致する活動に協力したり、あるいは



いろいろな施策、伝統、習慣等に関する調査の依頼もあります。さて、駐在した91年から94年の間の英国は、不況の真只中にありましたが、たとえば91年、92年と実質GNPの伸び率が前年を割り込むといった事態であり、また失業率は年々増加し、93年には10%を越えてしまいました。企業の倒産、従業員の首切りなど、毎日のように報道されていた。

しかし、このような状況にあっても、英国人は一向に深刻な表情を見せません。常にどこか余裕があるように感じられました。社会的弱者に対する暖かき、寛容さはそのほんの一例でありましょう。

白い杖を持った目の不自由な人が道路を横断しようとしているよ

うなとき、だれかが必ず手を引いて誘導します。赤ちゃんの乗ったベビーカーを押す女性が階段の前でいつまでも途方に暮れることはありません。車椅子の人も同じです。

そして、助けられたからと言って、特に恐縮することもなく、また助けた側も構えた様子はありません。お互いに笑顔で何事もなかったかのように別れていきます。こうして、障害を持つ人も普通に社会生活を営んでいます。また、古いところでは百年も前にできた地下鉄の、施設の貧弱さを十分に補うことになっていきます。

ところで、こうした心のゆとりはどこからくるのでしょうか。それはひとつには、彼らの個人主義に由来するのではないかと私は思います。つまり自分以外の人の人格も認め、尊重しているからではないでしょうか。そして自分自身に対する自身です。

いずれにしても、英国のすべてが良いとはもちろん決して言えませんが、学ぶべきところもあることは認めなければなりません。これは、長いとも言え、短いとも言える三年間の英国滞在の収穫のひとつだと思えます。毎日を、心にとりを持って生きていきたいと思っています。

第29回ゴルフコンペ

木村芳夫氏(大8)が優勝

恒例の名古屋陵水会ゴルフコンペが四月二日(土)、快晴の東名古屋CC・西コースで開催された。参加者は二十五名。成績は次のとおり。

- | | | |
|-----|-----------|-----------|
| 優勝 | 木村芳夫(大8) | 92・16・76 |
| 2位 | 南野輝久(大5) | 105・26・79 |
| 3位 | 亀井正幸(大5) | 95・15・80 |
| 4位 | 岩田政三(大17) | 98・18・80 |
| 5位 | 林 虔二(本21) | 106・25・81 |
| B G | 木村芳夫 | 92 |

※荒島保様より特別賞を寄贈いただきました。ありがとうございました。

フルマラソンを科学する

榊原 寛

名古屋陵水ゴルフコンペの常連から田舎のジョギングに転向して3年。総会の翌夕日に掛川でフルマラソンに挑戦し、野次馬の予想を見事に覆してフィニッシュした。55才になって「若いものに負けておれるか」という変な意識が強くなったのが走り出した直接の原因。新美南吉で一躍有名になった田舎の自然と、万年プービーとい

うゴルフ下手も大いに関係あったろう。

しばらくは、走っているととても信用してもらえなかった。初めのうちは走り出すと足の筋肉が硬直し、1キロも走れなかったのだから無理もない。ところが、一日5キロのジョギングが日課になると自問自答が始まる。「これで走っているのか」と。適度のジョギングは健康に良くてもレースでは通用しない。つまり走っていることにはならないのだ。実際のレースでは5キロなんかは短距離の要領で走らなないとビリになってしまう。

一回の練習量が10キロ・1時間になった頃、健康の3要素「食欲」「睡眠欲」「性欲」は絶好調に達した。個人差もあるが効果は抜群だ。一方、継続は力なりでいくらでも走れるようになる。こうなる無敵の可能性にいやでも挑戦したくなる。

フルマラソンを決意して本格的な練習を始めたのは三月。①月間三百キロの走り込み、②腹筋などの筋力トレーニングのほかに、③事あるごとにPRして気分を高ぶらせる心理作戦も併用した。走るだけがトレーニングではない。よいよよ本番の日。ともするとペースが上がりそうになるのを抑

情報コーナー

目標は二百人!

平成七年の総会担当になって!

陵水会名古屋支部総会は毎年四月中旬に開催されますが、昭和六十三年より開催担当が卒業年次の持ち回りになり、昭和六十二年は大学一回卒担当、平成元年は大学二回卒担当...平成五年は大学六

えながら30キロ地点をイメージ通りに通過した途端、がくんときた。30キロから先は自分には未踏の次元だったからだ。この時点でエネルギーを補給しなければ足が動かないことを体験。さらに35キロから先は死闘だ。一流選手でもかくありなんと思いつながら気力のみでゴールした。

フルマラソンは体力、気力、知力の総合力の勝負である。体力的に優れていると思われるランナーが30キロ過ぎで脱落していったのを見て、なにか経営戦略に欠ける企業を連想してしまつた。

マラソンにはドラマがあるので、今後もマイペースで走るつもりだ。ゴルフも一からやり直してみよう。

回卒担当・今年の平成六年は大学七回卒担当で、四月十五日に開催されましたが、約百六十人参加で大変な盛り上がりでした。アトラクションで、モンゴル出身の歌手・オユンナさんの「琵琶湖周航の歌」には彦根での四年間が思いだされ、郷愁で胸が引き締められる感じでした。

来年、平成七年は大学八回卒の担当です。今年担当の七回卒先輩より「八回卒担当の来年は二百人以上の支部総会にせよ」とハッパをかけてプレッシャーを感じております。

今までは支部総会についてあまり深く考えた事はありませんでしたが、担当になって「陵水会名古屋支部総会」とは? 同窓会とは? の疑問にぶつかりました。? を解けば自然に参加して頂く人数が増えるのではないのでしょうか。

自分なりに同窓会とは?

「彦根での昔を懐かしみ、卒業後の人生の足跡を語り合い、楽しむ事」ではないでしょうか。同じ過去を共有する連帯感から生まれる思いではないのでしょうか。

ある四十才代の人から「最近、同窓会を頻りに聞くようになったが、貴方の大学では?」の話がありました。そのなかで、四十才代が同窓会への関心年齢の感じが

うなとき、だれかが必ず手を引いて誘導します。赤ちゃんの乗ったベビーカーを押す女性が階段の前でいつまでも途方に暮れることはありません。車椅子の人も同じです。

そして、助けられたからと言って、特に恐縮することもなく、また助けた側も構えた様子はありません。お互いに笑顔で何事もなかったかのように別れていきます。こうして、障害を持つ人も普通に社会生活を営んでいます。また、古いところでは百年も前にできた地下鉄の、施設の貧弱さを十分に補うことになっていきます。

ところで、こうした心のゆとりはどこからくるのでしょうか。それはひとつには、彼らの個人主義に由来するのではないかと私は思います。つまり自分以外の人の人格も認め、尊重しているからではないでしょうか。そして自分自身に対する自身です。

いずれにしても、英国のすべてが良いとはもちろん決して言えませんが、学ぶべきところもあることは認めなければなりません。これは、長いとも言え、短いとも言える三年間の英国滞在の収穫のひとつだと思えます。毎日を、心にとりを持って生きていきたいと思っています。

しました。

四十才代は、社会での責任が重くなり、ストレスのたまる時期。子供も大きくなって子ばなれの時期。人生の折り返し時点です。卒業以来、がむしやりに仕事・仕事と人生を過ごした人がふっと過去を振り返りたくなるのが四十才代だと思えます。

多感な青春時代の郷愁を思いださせる、楽しい企画・全員が参加出来る企画、このあたりをキーワードに進めたいと思えます。

具体的には何をするかは名古屋支部所属の八回卒全員で考えたいと思っています。

来年の支部総会に多数の皆様方のご参加をお願いします。

(大学八回卒・脇田佳男)

新役員紹介

去る六月五日、陵水会本部で理事会と評議員会が開催され、別表のとおり新役員が決定した。名古屋支部関係では、中山修氏(大1)と井澤慶一氏(本21)が理事に選任された。

さらに、新役員による理事・監事会で中山氏が規則担当の副理事長を委嘱された。(◎は理事長、○は副理事長、カッコ内は担当部門)

新役員

〈氏名〉 〈回〉 〈支部〉

- | | | | |
|-----------|-------|-----|----|
| 理事 | 岡本 信男 | 本16 | 京都 |
| 〇吉田 精一 | 本18 | 長浜 | |
| 佐野 志郎 | 本18 | 東京 | |
| ◎樋口廣太郎 | 本21 | 東京 | |
| 井澤 慶一 | 本21 | 名古屋 | |
| 〇桂 泰三 | 本23 | 大阪 | |
| 渡部 孝雄 | 本24 | 大阪 | |
| 太田 秀興 | 本24 | 岐阜 | |
| 〇川本 茂 | 大1 | 東京 | |
| 〇中山 修 | 大1 | 名古屋 | |
| (規則) | | | |
| 〇吉田 芳和 | 大1 | 京都 | |
| (事務局) | | | |
| 三上 剛一 | 大1 | 兵庫 | |
| 〇大石 寿栄 | 大1 | 大阪 | |
| 塩谷 務 | 大3 | 彦根 | |
| (財務管理) | | | |
| 田中 博 | 大3 | 東京 | |
| 樋口 泰三 | 大5 | 長浜 | |
| (総務・年報) | | | |
| 大森修太郎 | 大10 | 彦根 | |
| (財務兼財産管理) | | | |
| 監事 | | | |
| 龜山 信吉 | 本21 | 岐阜 | |
| 大沢 隆 | 本23 | 大阪 | |
| 北居 隆 | 大1 | 長浜 | |
| 特別顧問 | | | |
| 大島 直良 | 本21 | 長浜 | |

支部名簿の整備・充実

名古屋支部独自の名簿として九

ショートゴルフ/乗馬/クアハウス



長島スポーツランド

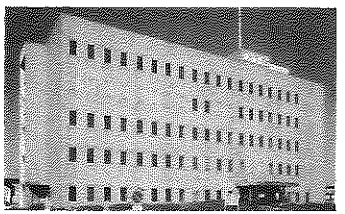
三重県桑名郡長島町0564-45-1122
取締役社長 橋本英一郎(大学7回卒)

大東工業ギヤーポンプ中部総代理店

合資会社 坂商会

営業品目: 大東工業ギヤーポンプ(あらゆる液体移動用)
ポンプ・送排風機等各種風水力機械
日立商品ストール(モートル等産業用標準電機品)
三菱電機ストア(家庭用電機品)

〒460名古屋市中区栄一丁目43番17号
TEL 052-251-4871代 FAX 052-251-4872
代表社員 坂 清司(大学7回卒)



東海建設株式会社
取締役社長 近藤勇雄(昭和31年)
〒455名古屋市中区新船町1-1電話(052)661-7171代

十一年四月に最新版を発行しまし
たが、会員各員からたいへん好評
をいただいております。

ところが実際には毎年会員の異
動が多いために、それらの情報を
捕捉してデータを整備することは
名簿担当の悩みの種であり課題で
もありません。

目下のところ、①昨年発行され
た本部名簿と②各回幹事などから
の情報にもとずいて整備・充実の
ための作業を進めています。

今回、さらに名簿データの正確
を期するために「調査票」を同封
いたしました。

※名簿の修正のある方及び記載さ
れていない方のみ提出して下さい。
い。

○封筒の宛名に※印のついている
会員は九十一年四月発行の名簿
に記載されていない方、又は補
充していただきたい方ですから
必ず提出願います。

○昭和六十三年三月卒以降の方は
すべて提出願います。

初参加も大歓迎

名古屋陵水会ゴルフコンペは年
二回開催されています。始めて
からすでに十五年になります。高
尚時代の大先輩、大学一桁組、若
手のバリバリ組など幅広く参加し

て楽しく交歓しています。

次回は第三十回記念大会として、
八組で盛大に開催されます。初参
加者が多数参加されることを期待
しています。

開催要領

日時：6年9月24日(土)

名古屋支部

「支部会費」(年二、〇〇〇円)

納入お願い

場所：東名古屋カントリークラブ
申込：初参加になる方は次回幹事
に連絡してください。なお、
幹事は木村芳夫氏(大8)
と酒井盛雄氏(大13)です。

会員の皆様にはいつも「名古屋
支部」の活動に多大のご協力をた
まわりまして、まことにありがと
うございます。

支部の活動は、まとめると「総
会費」と「支部会費」の二本柱
の資金によって運営されておしま
すが、総会開催以外のすべての活
動は実質的に「支部会費」(年二、
〇〇〇円)によりまかなわれてお
ります。

昨平成五年度も、収支報告書の
とおり、合計三二九名の方より納
入いただき、おかげで無事に収支

運用することができました。厚く
お礼申しあげるとともに、今年度
も、未納の各位にはぜひ納入いた
だきますよう伏してお願ひ申しあ
げます。

ちなみに、この「名古屋陵水」
をお届けしている各位全員の方に
納入していただければ、資金的に
何倍かうるおって、活動も格段に
広がるおかげがね話も出ておしま
す。諸費多量と存じますが、よろ
しく納入ご協力のほどあらためて
お願い申し上げます。

振込先は次のいずれかの口座を
ご利用下さい。

- ①郵便局 名古屋 七・八六六一
- ②滋賀銀行 名古屋支店 普通 〇五二六一九
- ③とも口座名は「陵水会名古屋支部 倉坪和久」です。

※振込時には、誤り防止のため必
ず「卒業回」を明記下さい。

なお、当支部では毎年「本部会
費」(年三、〇〇〇円)もあわせ
て代理集金を致し(計五、〇〇
〇円)年二回にまとめて、納入
者氏名を添え本部へ納付致して
おります。

平成5年度 名古屋支部 収支報告書 (自 H5.3.21 至 H6.2.28)

収入		支出	
前年度繰越	1,715,988	H5年度 総会費用	1,208,284
H5年度 総会会費	1,220,000	「名古屋陵水会」発行	203,175
” 支部会費	658,000	会議費	140,968
「支部名簿」売上	19,500	交際費	126,160
雑収入	83,192	交際費補助	110,900
		事務費	97,297
		雑費	10,424
		次年度繰越	1,799,472
	3,696,680		3,696,680

名古屋支部 平成五年度 収支報告

掲載されますのでお確かめ下さい。
会員各位のご協力によりまして
平成五年度もつつがなく収支運用
することができました。厚くお礼申
しあげます。

収支報告書は別掲のとおりです。
去る四月十五日の支部総会でご報
告の上ご承認いただきましたが、
あらためてご報告申し上げます。

編集後記

▲母校の創立七十周年記念行事は
昨年十一月三日に、盛大に開催さ
れた。オーケストラの豊かな演奏
で始まった記念講堂での式典。湖
に金色に映える夕日を効果的に演
出した祝賀会。全国から参集した
同窓生は、懐かしい彦根の一日に
昔日の思いを新たにしたことであ
ろう。

▲名古屋支部のバス・ツアー参加
者には事前に七十周年記念特集の
原稿をお願いしておいた。おかげ
でたくさんの玉稿で編集部はうれ
しい悲鳴。大先輩ほど積極的にか
つ内容のあるものを送ってくれま
した。心より感謝します。

▲来年の総会担当を代表して脇田
さんが「支部総会とは」「同窓会と
は」という問いかけをしています。
大いに考えてみてください。目標
は二百人。達成しよう。

▲吉田経済学部長が滋賀大学の持
来について具体的に説明していま
すが、その中で本心に心配なのは、
県立大学に吸収されてしまうケー
スです。杞憂に終わればよいが。
そのためには、新設学部構想を十
分に理解して、OBとしてできる
ことは何かを考えてみる必要もあ
るのではないのでしょうか。